府立貝塚南高等学校
校　長　上田　信雄

令和２年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

校訓「自由と規律」のもと、人間尊重に徹した、真に国際社会に通用する「明るく、たくましく、心爽やかな人間」を育成する。
１．夢・目標を主体的に見つけ、進路実現に向けて積極的に取り組む生徒を育てる。
２．知的好奇心が旺盛であり、自ら考え学ぶ姿勢を持った生徒を育てる。
３．集団の中での義務と責任を認識し、集団の一員として貢献する意欲のある生徒を育てる。
４．他人の立場や周りの人の気持ちを考え、行動できる生徒を育てる。

２　中期的目標

１．確かな学力の育成
（１）「わかる授業、考える授業」を通じて生徒の主体性、積極性を育み、学力向上に取り組む。
ア　学校としての「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」について、全教員で共有し、実現への方法を明確化する。
イ　学力向上委員会を中心に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、学力向上に組織的に取り組み、ICT 機器を活用した効率的・効果的な授業についても研究を進める。
ウ　令和４年度の次期学習指導要領全面実施に向けて、その主旨を生かすと共に、生徒の希望進路実現に対応した特色ある教育課程を編成する。
※学校教育自己診断（生徒）における授業満足度の肯定的回答（H29 58%、H30 57%、R01 58%）を毎年２ポイント引上げ、令和４年度には 64%にする。
２．夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成
（１）生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的な進路指導体制を確立する。
ア　３年間を通した継続的かつ計画的に進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および職業などについてキャリア教育を行う。
イ　３年間を通した計画的な講習の実施により、早期から進路実現に向けて努力させる。
※進路未定率（H29 1%、H30 5%、R01 5%）を毎年 0.5 ポイント引き下げ、令和４年度には 3.5%以下にする。
（２）「総合的な探究（学習）の時間」や HR 活動を通じ、人権教育、キャリア教育等を行うことにより、自らの在り方、生き方を考えられるようにする。
※学校教育自己診断（生徒）における進路に関する情報提供の肯定的回答（H29 72%、H30 70%、R01 74%）を毎年２ポイント引上げ令和４年度には 80%にする。
※学校教育自己診断（生徒）における人権について学ぶ機会の肯定的回答（H29 79%、H30 77%、R01 79%）を毎年１ポイント引上げ令和４年度には 82%にする。
（３）グローバル人材の育成
ア　グローバル人材を育成するために、海外修学旅行を継続すると共に、授業や特別活動を通じて、グローバルな視点や姿勢を身につけさせる。
※生徒向け修学旅行アンケートにおける満足度の肯定的な回答 90%以上（H30 97%、R01 93%）を維持する。
３．安全安心で魅力のある学校づくり
（１）生徒の規範意識を醸成すると共に、個々の生徒への支援体制を強化する。
ア　朝の職員連絡会や SHR を通して、生徒の状況を把握、教員間で共有し、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。
イ　教育相談体制を充実させるとともに、合理的配慮を充実させ、生徒や保護者そして教職員も安心して学校生活が送れる体制を作る。
ウ　互いの違いを認め合い、「ともに生きる」精神を育成し、学校に来るのが楽しいと感じる環境を作る。
※１月末段階での遅刻（H29 4,142 件[年間]、H30 4,200 件、R01 3,676 件）を毎年 100 件ずつ減少させ、令和４年度には 3,300 件以下にする。
※学校教育自己診断（生徒）における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答（H29 70%、H30 69%、R01 70%）を毎年１ポイント引上げ令和４年度には 73%にする。
※学校教育自己診断（生徒）における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答（H29 69%、H30 73%、R01 76%）を毎年１ポイント引上げ令和４年度には 79%にする。
（２）特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
ア　クラブ、文化祭や体育大会などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。
※学校教育自己診断（生徒）における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（H29 66%、H30 66%、R01 63%）を毎年２ポイント引上げ令和４年度には 69%にする。
※学校教育自己診断（生徒）における「体育大会（祭）は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（H29 49%、H30 50%、R01 49%）を毎年２ポイント引上げ令和４年度には 55%にする。
（３）生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者との連携および環境の整備を行う。
ア　保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。
イ　「防犯及び防災計画」を点検し、天災や火災、侵入者などの危機管理体制を充実させる。
※学校教育自己診断（職員）における「事故・事件等に迅速・適切に対応」（H29 61%、H30 78%、R01 82%）を毎年１ポイント引上げ令和４年度には 85%にする。
４．地域・保護者と連携した学校づくり
（１）広報活動を活性化し、本校の取り組みを中学生や保護者、地域に発信する。
ア　Web ページおよびブログを定期的に更新し、本校の取り組みを地域・保護者に発信する。
イ　本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。
※メール配信を教育支援クラウドサービスに置き換えることにより、登録者（H30 78%、R01 66%）の在籍者に対する割合は 100%とする。
（２）地域との連携に取り組む
ア　KEYS（貝塚警察署との連携した活動）等のボランティア活動を継続発展させる。
イ　地域の学校等との連携を活発に行う。
（３）保護者向け進路説明会の実施および保護者への進路情報の提供
ア　保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画、実施すると共に、進路情報を積極的に発信する。
※学校教育自己診断（保護者）における進路に関しての情報提供（H29 56%、H30 56%、R01 55%）を毎年２ポイント引上げ令和４年度には 61%にする。
５．教職員の資質向上と意識改革
（１）　個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務にあたる。
ア　運営委員会を中心としたミドルアップダウン型組織とし、校内での情報共有、意思統一の経路を明確にして、組織目標の達成を行う。
イ　ICT 機器を効率的に活用し、さまざまなデータの共有・情報共有を行うと共に、事務作業等の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。
（２）校内での教職員研修を積極的に行うと共に、外部で実施される研修等の内容を校内で共有する。
ア　教職員の資質向上をめざした教員研修を計画的に実施する。
イ　校外での研修などにより、積極的に情報を収集するとともに校内での周知を行う。
（３）働き方改革の取り組みを行い、職員が生徒と向き合う時間を増やす。
ア　働きやすい職場環境の整備につとめると共に、風通しがよく、働きがいのある組織作りを進める。

府立貝塚南高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和２年 12 月実施分］	学校運営協議会からの意見
○%（■%）・・・R01 ○% R02 ■%を示す。 【生徒】20/20 項目で改善が見られた。授業に関する項目で、「授業はわかりやすい」68%(58%)、「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がよくある」68%(58%)と 10 ポイント（以下：pt）以上の上昇があり、グループ学習や発表の機会を取り入れる授業が増えていると考えられる。「校舎内外の施設や設備が整備され、清掃がいきとどいている」51%(41%)校舎の老朽化も目立つ中、全教室のホワイトボード化などの環境整備が評価されたと考える。その他、人権、学校行事、HR 活動などの項目で 10pt 以上の上昇が見られ、生徒の自主性を育み積極性を引き出す学校目標が浸透してきていると判断したい。 【保護者】10/12 項目で改善が見られた。「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている」15pt、「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。」17pt と大きく上昇した。教育支援クラウドサービスの導入に伴って、各学年から直接、保護者への連絡を頻繁に行っていることが評価されたと思われる。また、「学校の生徒指導の方針に共感できる」で 10pt 上昇し、学校の指導方針を伝える機会が増えたことが、理解につながったと考える。一方、「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」は、肯定的回答が６pt 減少した。コロナ禍による行事の縮小や来校制限もあったが、保護者や地域住民に教育活動を見ていただくことは非常に大事な機会として、次年度は授業参観、学校行事の活性化や公開講座の実施などに取り組みたい。 【教員】22/26 項目で改善が見られた。「本校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている」26pt、「教員間での校務（授業も含む）に関する情報共有ができている」22pt、「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」22pt などの改善が見られ、タブレット端末の導入など ICT 活用を含めた情報共有が進んでいると思われる。「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」27pt の改善は、情報をもとに計画的な業務への取組の意識が定着していると思われる。また、「学習意欲の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」34pt、「到達度の低い生徒への学習指導を、全校的課題として取組んでいる」16pt と改善が行われ、実力考査の結果分析会を実施したり、学級診断尺度調査による情報共有を行うなど、客観的な情報をもとに個に応じた教育への取組の結果と考えたい。一方、「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている」は、20pt と大きく下げており、施設の老朽化が進んでいる。しかし、全教室のホワイトボード化や ICT の導入など教育環境の充実をさらに進める必要がある。	第１回　令和２年７月（郵送による開催） ・グループワーク、ペアワークをしていく中で、人間関係を形成していってほしい。 ・ICT の活用は以前よりされているので良かったと思います ・教育支援クラウドサービスの運営会社への依存度が高い。子供にとってこれは有益だろうか。 ・休業期間中の教育活動については、昨年度から積極的に ICT を導入している成果が出ている。本年度には市町村立にも導入されるので教えていただきたい点も数多くある。 ・コロナ対策について、人間関係づくりについて、保護者からの不安の声がある。学校行事から人間関係の形成がされる場合が多い。改めて学校行事の意味を確認できた。 ・SSW の配置とともにその業務や活用の研修は必要であると感じています。特にケース会議の効率的な開催やモニタリングシートの利用については教員の共通認識が必要。 ・教育支援クラウドサービスにてアンケート・欠席連絡を実施して連携をとり、配布物や総合、HR の様子などを保護者に連絡しているが、今後は、教育支援クラウドサービスをみている保護者を増やすことが課題である。 ・アナログでも子供たちとつながることができるし、何が何でも教育支援クラウドサービスでないとになってほしくない。(郵送も聞きました。) これからも子どもたちを第１に多くを学び経験できる高校をめざしてほしい。 第２回　令和２年 11 月 20 日（金） ・進路が未定な生徒に対して早い段階からの意識づけが必要。 ・進路目標は具体的に数字を挙げて教員の共通認識として学習指導を行っては。 ・保護者、地域との密な連携が重要でありますが公開講座を実施には十分なコロナ対策が必要。 ・自転車マナーが悪い。危険なのでマナーを守る指導を。 ・コロナ禍の中で、不自由な生活を強いられている。あきらめることは簡単だが、自分たちには何が残されていて何ができるのかを生徒だけでなく教員にも考えてほしい。 ・よく先生方が努力されたと思います。今後は、生徒のメンタル面でのケアが重要になってくると思います。 ・日程がタイト。働き方改革について 、休みの取り方は どうなっているか？ ・補習や予備校講師の活用，OB との面談や WEB 交流などが有効では。 ・補講授業は土日や休業中にはオンライン学習を有効利用しては。 ・安全安心の学校作りが、コロナの状況では重要な課題になると思います。 ・オンライン学習の環境は家庭環境で格差が起きないように配慮が必要。支援に問題が生じるのであれば行政・同窓会への支援の働きかけを行ってほしい。教育支援クラウドサービスや双方向動画配信の使用は普段からの慣れが必要ですので、機会を見つけて忘れないように指導すべき。 ・学校付近の防犯灯について、台風で故障していたが１つ設置した。 第３回　令和３年２月（郵送による開催） ・全体的に目標が達成されていると思う。 ・「学校へ行くのが楽しい」と考える生徒がどの学年も多いことは喜ばしいことです。 ・「授業が分かりやすい」が改善されたのが最も大切なことであり良かったです。他の項目も改善が見られて良い教育活動をされていると思います。この素晴らしい教育活動を中学生やその保護者、地域の皆さんに理解していただければと思っています。 ・生徒・保護者とも肯定的評価が増加していることは、日頃の教育活動の成果が出ていると思われます。 ・前年度からの教育支援クラウドサービス導入や ICT の活用で時代に応じた環境整備がなされている。 ・授業改革の成果が少しずつでいるように思います。 ・ICT 危機を活用した授業、教育支援クラウドサービスによる情報発信、コロナ禍における新しい教育活動を積極的に行われたと考えます。 ・コロナ禍の中、実力考査の成績が上昇していることは素晴らしいと思います。 ・１年生のころからの進路指導の重要性は言うまでもなく、生徒の調査でも概ね高評価を得ているようです評価したいと思います。目先の進学実績だけでは無く生徒に寄り添って取り組んでほしい。ただし、一般の高校の評価は進学実績がなされることが多い現状の中、管理職を筆頭に学校全体で取り組んでほしい。 ・就職者が公務員を含め全員決定してよかったです。この混乱の中、多くが決定し頑張れたと思います。 ・多くの学校で修学旅行が中止される中、実施されたのは生徒たちにとってとてもよかったと思います。 ・「進路指導」「志願者数の増加」「クラブ活動の活性化」などテーマを決めてフリートークを行ってはいかがでしょうか。 ・時間外勤務の増加も緊急事態への対応があったため、仕方なかったと思う。 ・それぞれ多くの改善が見られています。さらに充実したものにしてください。 ・コロナ禍で多くの制約を受けていますが、この経験を活かして目標に向かってください。

府立貝塚南高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１ 確かな学力の育成	（１）「わかる授業、考える授業」を通した学力向上 ア 「生徒に育成したい資質・能力」、「めざす授業」の実現に向けて イ 学力向上をめざした取り組み ウ 授業アンケートの効果的活用 エ ICT 機器を活用した授業の研究・実施 オ 自学自習の推進 カ 図書館の活用の推進 キ 特色ある教育課程の編成	（１） ア 「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」を実現する方法について、全教職員で共有し、実践する。 イ 授業規律を高め、授業力向上の取組（研修、相互授業観察、研究授業など）を計画的に実施する。 ウ 授業アンケートを実施し、各教員が結果を分析し、「授業アンケート結果分析シート」を作成し、授業に改善に努める。 エ ICT 機器を活用した学力向上について研究を進め、ICT 機器を活用した研究授業を実施。プロジェクター、タブレット端末等を有効に活用する。 オ 授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。 ・生徒の生活実態を把握し、授業以外の学習時間を確保し、授業に臨めるようにする。 ・自習室や教育支援クラウドサービスの活用。 カ 図書室での PC を用いたクラウドサービスの活用なども取り入れ、授業での活用を推進するとともに、図書委員の活動を活性化し、生徒の読書活動を推進する。 キ 次期学習指導要領全面実施に向けて、その主旨の理解を図り、生徒の希望進路に対応した教育課程を編成する。	（１） ア 全教員で共有し、実現に向けた環境整備を行う。 イ 教員相互の授業観察を実施、年間延べ(R01 １月末 40 回)150 回以上。研究授業５回以上。 ウ 全教員が「授業アンケート結果分析シート」を作成。学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答(R01 58%)60%以上 エ ICT 機器を活用する教員の割合（R01 89%）90%以上 オ 自主的に学習する習慣を高める。基礎学力調査(９月実施分)の１日あたりの学習時間１時間程度以上の割合(R01 １年 39%、２年 26%) １年 40%以上、２年 30%以上 カ 校内読書感想コンクールの継続実施。図書委員の活動を年間(R01 38 回)20 回以上実施。図書室の活用時間の増加。 キ 次期学習指導要領に沿った教育課程を編成する。	（１） ア 多くの場面でめざす生徒像を共有し、生徒への発信を行っている。生徒に経験をさせる意識は強まっている。 イ 授業観察 168 回、研究授業 12 回実施。（○） ウ 全員が授業アンケート分析シートを提出。「授業が分かりやすい」の肯定的回答 68%。（◎） エ ICT 機器を活用する教員の割合 100%。（◎） オ 実力考査の成績では、ほぼすべての教科で１から２ランクアップしている（◎）。しかし、学習時間１時間程度以上の割合１年 30%、２年 21%と減少した。学習習慣をつけ、学力の定着が課題。（△） カ 読書コンクールは継続して実施。図書委員の活動は 24 回。図書室の活用時間はコロナウイルスの影響で減少。（○） キ 教育課程ＰＴを立ち上げ、教育課程が概ね完成した。（○）
２ 夢と希望を持つ生徒育成	（１）生徒の希望する進路の実現 ア３年間を通して進路指導に取り組む イ 生徒情報の共有 ウ 計画的な講習の実施 （２）コミュニケーション能力の育成 ア 班活動や発表機会を増やす （３）グローバル人材の育成 ア 海外修学旅行の実施 イ グローバルな視点を身につける	（１） ア 3 年間を見通した進路指導計画を作成し、生徒、保護者とも共有する。 イ 定期考査、基礎学力調査などの結果から生徒の学力推移を分析し、教育支援クラウドサービスと連携し、学年・教科・分掌間で共有し、進路指導に活かす。 ウ 進路目標達成に向け、教科、分掌及び分掌の連携を強化し、進学や就職のための説明会や講習等を計画・実施する。 （２） ア 各授業、HR、総合的な探究（学習）の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やす。 （３） ア 海外修学旅行における事前・事後を含めた活動を通じて、国際感覚を身につける イ 国際交流の機会を模索し、授業や特別活動を通じて、グローバルな視点や姿勢を身につけさせる。	（１） ア HR 等を活用した学年全体での取組み(R01 １年７回２年 19 回３年８回)１・２年 10 回以上、３年５回以上実施 イ 学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定的回答(R01 64%)65%以上。学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答(R01 74%)75%以上 ウ 進学講習は全体で 170 回以上を実施。教育支援クラウドサービスによる学習動画、WEB ドリル等の活用を加えて、より個人の状況に合わせた指導を進める。(R01 217 回[進学講習のみ]) （２） ア 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答(R01 57%)60%以上 （３） ア 修学旅行実施後の生徒アンケート満足度 90%以上(R01 93%)を維持 イ学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答(R01 55%)60%以上	（１） ア 貝南進路マップを作成。WEB 等で公開。学年での取り組みは、１年５回２年 11 回３年６回となった。臨時休校の影響もあり、若干減少した。（○） イ 「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定的回答 67%（○）。「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答 82%。（○） ウ 進学講習は、103 回実施。長期休暇が減少したため回数が減少した。教育支援クラウドサービスの実力考査との連携機能を利用して個々の苦手分野にあった指導をするなどリモートでの指導に取り組んだ。（△） （２） ア 「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答 68%。（◎） （３） ア 当初予定のグアムから石垣島に変更したが、修学旅行の満足度は、95%であった。（○） イ 「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答 57%。（△）海外修学旅行が中止となり次年度についても実施が困難な状況。海外からの訪問もなくあまり取り組めなかった。(－)

府立貝塚南高等学校

3 安全安心で魅力のある学校づくり	(1)生徒の規範意識の醸成と支援体制の強化 ア 職員室の効率的な活用による指導力向上 イ 登校指導等を通じて、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。 ウ 教育相談・支援体制の充実 エ 互いの違いを認め合い、「共に生きる」精神を育成する。	(1) ア 職員室を効率的に活用し、日常的に生徒情報の共有を図ると共に、担任・副担、学年団などでの OJT を通じて、教員の指導力向上を図る。 イ 朝の登校指導や朝の SHR などを通じて、遅刻・服装・頭髪指導などの規律指導を行う。 ウ 相談室、SC、関係機関などの連携を強め、合理的配慮にそった個に応じた支援体制の充実を図る。 エ 人権教育の体系化を図り、生徒へ人権の大切さを学ばせる。 ・いじめ事象の発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒を育成する。	(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答(R01 85%)90%以上 イ 朝の登校指導や昼休みの指導の継続実施。 年間延べ遅刻回数(R01 1 月末 3,676 回)3,550 回以下 ウ学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答(R01 70%)70%以上。就学支援会議で具体的な配慮について検討する。 エ 学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答(R01 79%)80%以上 学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応」の肯定的回答(R01 71%)75%以上	ア 「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答 91%。 (○) イ 登校指導等は継続。メロディーチャイムなどの効果により、遅刻回数は 3,090 回に減少。 (◎) ウ 「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答 77% (○)。就学支援会議を考査ごとに開催。ケース会議を学期ごとに実施。 (○) エ 「人権の大切さについて学ぶ機会」肯定的回答 86%。 (○) 「先生はいじめに真剣に対応」肯定的回答 78%。 (○)
	(2)特別活動を通じ、豊かな高校生活を実現させる ア 部活動入部率の向上と部活動の活性化 イ 学校行事の活性化	(2) ア 新入生対象の部活動紹介や体験入部を通じ、部活動入部率の向上と部活動の活性化を図る。 イ 遠足、体育大会、文化祭などの配置とともに内容について検討し、めざす生徒像の完成に資するものとする。	(2) ア １年生全員の体験入部を継続。部活動加入率(R01 50%)50%以上 イ 学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答(R01 63%)65%以上。「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」(R01 49%) 50%以上。学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答(R01 74%)80%以上	(2) ア 体験入部は形態を変更して実施。加入率は 57%。特に１年で 68%の参加が見られ大きく上昇した。 (◎) イ 「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」肯定的回答 75%。(◎) 「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」59% (○)。「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 77%。(△) 評価指標に到達しなかったが、生徒の回答はすべての項目(20 項目)で肯定的回答が増加し、全体的な満足度は上がっていると考えられる。(◎)
	(3) 保護者との連携および環境の整備 ア 保護者との連携 イ 美化活動等の環境整備 ウ 防犯および防災対策の推進	(3) ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により、生徒の指導や支援を行う。 イ 環境美化への意識を高める環境整備を行う。 ウ 「防犯及び防災計画」の内容を周知し、危機管理意識を向上する。	(3) ア 学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答(R01 59%)60%以上 イ 学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答(R01 41%)45%以上 ウ 生徒用備蓄の整備を継続。 学校教育自己診断(職員)の「事故・事件に迅速・適切に対応」の肯定的回答(R01 82%)85%以上。緊急連絡方法の確立。	ア 「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答 75% (◎) イ 「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答 51%。施設の老朽化も目立ち数値は高くないが、全教室をホワイトボードにするなど環境改善を行っている。 (○) ウ 「事故・事件に迅速・適切に対応」の肯定的回答 88% (○)。教育支援クラウドサービスでの緊急連絡訓練を適宜行った。 (○)
4 地域・保護者と連携した学校づくり	(1)広報活動の活性化 ア 学校 Web ページ、ブログによる情報発信 イ 教育支援クラウドサービスによる情報発信	(1) ア 広報委員会が中心となり、オープンスクール等を継続すると共に、学校 Web ページおよびブログの情報更新を活発に行うと共に、内容の充実を図る。 イ メール配信を教育支援クラウドサービスに置き換え、保護者への情報発信を行う。	(1) ア ブログの更新を積極的に行い年間 180 回以上の更新(R01 1 月末 179 回)を維持 Web ページのアクセス数 30,000 アクセス以上(R01 1 月末 29,301 アクセス)を維持 イ 保護者懇談等を通じて、すべての保護者の登録を確認する。	(1) ア ブログの更新は 116 回。保護者・生徒への情報発信は大きく増加したが、ブログは年度当初の臨時休校の影響で更新回数が減った。WEB のアクセス数は、28,597 アクセス。 (△) イ すべての保護者の登録を確認。保護者の教育情報の提供に努力している」の肯定的意見は、R01 53%から R02 70%と大きく増えた。 (◎)
	(2)地域との連携 ア ボランティア活動の継続発展 イ 地域の学校等との連携	(2) ア KEYS (貝塚警察署との連携) 等ボランティアの継続実施および内容充実 イ 近隣の保育園での保育体験実習の継続実施 部活動等を通じて地域との連携を図る。	(2) ア KEYS の活動を継続(R01 7 回)。その他のボランティアを推進。 イ 保育体験実習を継続(R01 12 回)。部活動等で中学校や地域との連携した活動(R01 中学校 21 回 地域 69 回)以上を維持。	(2) ア 本年度 KEYS の活動は実施されなかった。赤い羽根募金を実施。 (ー) イ 保育体験実習を６回実施。中学校との連携７回、地域との連携１回)。新型コロナウイルスの影響の中、可能な範囲で実施した。 (○)
	(3)保護者への進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の実施 イ 保護者への進路情報の積極的発信	(3) ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する。 イ 進路だよりなどの配布とともに、教育支援クラウドサービスによる送信なども活用して、保護者に確実に情報が伝わるようにする。	(3) ア １・２年と３年対象の説明会や大学見学会を実施。保護者の肯定的回答 70%以上 イ 学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定的回答(R01 55%)60%以上	(3) ア 説明会を１年５回、２年３回、全学年２回実施。大学見学会は校内での説明会に変更。保護者の肯定的回答 80% (○) イ 「進路に関しての情報提供」の肯定的回答 57%。わずかな増加にとどまった。進路マップ等も活用してより細かな情報提供が必要。 (△)

府立貝塚南高等学校

５ 教職員の資質向上と意識改革	（１）個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務に当たる。 ア　教員間での情報共有を行い、組織目標の達成を行う。 イ ICT 機器を活用し校務の効率化を図る （２）教員研修実施、授業見学や外部実施研修への積極的参加 ア　ニーズに合った教員研修の実施 イ　他校への授業見学等 イ　校外での研修への参加 （３）働き方改革の取り組み ア　校務の見直し及び効率化 イ　働きやすい職場環境整備	（１） ア 運営委員会を中心に、情報共有が円滑に行えるミドルアップダウン型組織とし、ICT の活用を推進する。 イ ICT の活用などを通じて、データを蓄積、共有することにより、分掌・学年・教科等の情報を共有し、校務の効率化を図ると共に、校務を組織的かつ継続的に行う。 （２） ア 教員の資質向上をめざした教員研修の実施、経験の少ない教員を中心とした勉強会の実施 イ 他校への授業見学や研修会等への積極的参加 （３） ア 組織改編を含む個人での業務から組織での業務への返還を進め、効率化とともに継続性を担保し、職員の異動等があっても授業や業務がスムーズに行われるようにする。 イ 職場環境を整備すると共に、お互いがサポートできる職場をめざす。	（１） ア 学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定的回答(R01 59%)60%以上。その他、教職員の学校運営への参加の意識を高める。 イ 学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定的回答(R01 82%)80%以上を維持 （２） ア 職員研修 10 回(R01 １月末 12 回)以上を維持、勉強会 14 回(R01 １月末 14 回)以上を維持、他校への授業見学を含めた研修会を１回(R01 ２回)以上。 イ 他校への視察を２回以上行い、校内での伝達を行う。 （３） ア 教員の時間外勤務の月平均時間数(R01 37 時間、11 月末)36 時間以下 イ ストレスチェック結果における総合健康リスクを前年度より下回る。(R01 111)	（１） ア 「校務に関する情報共有ができている」の肯定的回答 81%。教育支援クラウドサービスやタブレット端末の活用により大幅に増加した。 (◎) イ 「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定的回答 87%。職員会議のペーパーレス化など業務の効率化に役立っている。 (◎) （２） ア 職員研修 22 回、勉強会 19 回実施。動画配信や双方向通信なども全教員ができるようになった。 (○) イ 貝塚市立第四中学校での視察を実施、他府県や府立学校の視察は感染拡大のため中止となった。 (－) （３） ア 時間外勤務の月平均時間数 35.２時間（２月末)。本年度は６月以降に大きく増加した。 (○) イ 総合健康リスク 110。クラス数の減少により、５年間で教員が 11 名減少し、多忙化が予想される中、業務の効率化により減少傾向を保てた。(○)